

(様式2)

平成 30 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1570102010		
法人名	社会福祉法人 仁成福祉協会		
事業所名	グループホーム しんせい		
所在地	新潟市江南区曾川甲1333番地1		
自己評価作成日	平成30年8月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/15/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成30年9月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1. 特別養護老人ホーム にいがた新生園に併設しており、誕生会・納涼祭・流しそうめん等グループホームだけではできない事も実施しています。
2. 口腔ケアに力を入れ、誤嚥性肺炎の予防や毎日美味しく食事が出来るよう訪問歯科の先生の支援を受けています。
3. レクリエーション・クラブ・行事では様々なボランティアの方々の協力を得て、外部の人達と接点を持つ良い機会となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、特別養護老人ホームに居宅介護支援事業所とともに併設されており、行事や災害・緊急時の対応及び研修なども合同で行っている。それにより利用者同士の交流や外出などサービスの充実が図られている。

利用者一人ひとりの生活歴や意向をきちんと聞き取り、その中から日常生活で達成したい具体的な目標をつくり、職員全員で本人へ働きかけるとともにケアで実施している。それによって入居前より状態が改善した事例もある。利用者自身に字を書き続けてもらえるよう、毎月来訪する絵手紙のボランティアに利用者全員が字を書けるような作品をつくってもらい、その結果、居室の表札を書いたり、日記を書くようになった利用者も複数いる。

急変時や災害時の対策として、講義や計画的な研修だけでなく予告なしに急変や災害の具体的な事例を出して職員が対応にあたるという研修も行っており、予測不能な急変や災害に対する実践的な備えが行われている。

地元小学校との交流や地域のサロンへの参加、様々なボランティアの受け入れなど地域との交流に力を入れているが、今年は地域包括支援センターの主催で事業所の見学会を行い、地域の方の参加を得た。今後はさらに地域で事業所の認知度が高まり、交流の輪が広がっていくことが期待される事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をそれぞれが再確認し実現に向けて努力している。毎年度末に全員で基本理念の見直しをしている。	職員の入れ替わりに伴って、改めて事業所として大切なことを職員一人ひとりから考えてもらい、基本理念の見直しを行った。理念は利用者から書いてもらい玄関に掲示して意識づけを行っている。介護計画作成時などに理念に沿った関わりが行われているかを確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の交流会の「いきいきサロン」や「資源回収」に参加している。自治会の方々より運営推進会議に参加して頂いている。又、小学校の文化祭等にも招待してもらっている。	近くの小学校の文化祭や運動会に招待されたり、地域のいきいきサロンに利用者が順番に参加するなど交流が行われている。今年度は地域包括支援センター主催で見学会が行われ、大勢の地域の方に事業所へ足を運んでもらっている。絵手紙や歌、元気アップサポーターなど様々なボランティアが定期的に来訪しており、また、日々の散歩で近所の方に利用者の顔を覚えてもらえるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事・交流会に参加する事で情報発信を行っている。又、地域包括支援センター主催で地域の方々向けにグループホームの見学会を行った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度運営推進会議を開催し、ホームでの現状報告を行い、意見を頂いている。又、利用者の代表の方にも参加してもらっている。その内容は玄関に置き、来客者がいつでも閲覧出来るようにしている。不参加のご家族には議事録と報告書を郵送している。	会議は、利用者・家族の代表、民生委員、地域包括支援センター職員や近隣のグループホームの管理者、事業所の代表者・管理者をメンバーとして2ヶ月ごとに行っている。事業所から活動内容や事故の報告があり、利用者・家族から運営に対する意見が出されている。最近の会議では、参加者に避難訓練の様子をみてもらい、意見をもらっている。管理者が身近な話題を提供し、リラックスした雰囲気で開催が行われている。畑作業の手伝いをするボランティアを紹介してもらったり、利用者の機能訓練について意見をもらい介護計画に反映させるなど、具体的なサービスの向上にも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員より運営推進会議に参加して頂き、情報交換を行っている。	地域包括支援センター職員からは運営推進会議に参加した折に意見をもらったり、事業所の見学会や勉強会の講師の依頼など連携をとっている。また、毎月訪問する市の介護相談員を通じて情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修や学習会に参加し、部会等でも意識付けるよう取り組んでいる。	具体的な事例が盛り込まれた法人独自のカラー刷りのマニュアルを職員一人ひとりに配布しており、職員はそれを活用するとともに、研修会に参加して身体拘束について学んでいる。ベッドから転落した利用者にはセンサーを使用しているが、状況を観察しながらセンサーをはずすタイミングを検討している。日中、玄関は施錠をせず、外出をする利用者には職員が付き添って出かけている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修や学習会を行い、職員間でも話し合い意識し防止に努めている。	事業所内研修や学習会を行って高齢者虐待防止関連法を学んでいる。管理者が職員の様子をみて声かけをしたり、心理学の勉強をした職員を講師にストレス対策の勉強会を行ったり、また、職員同士で仕事やプライベートのことなど話し合いをすることで、虐待に繋がらないように努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	地域包括支援センターより研修を行ってもらっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に納得、理解を頂いたうえで契約を行っている。解約、改定の際は十分に話し合いの場を作り説明している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置。利用者様からの要望は日常生活の中から伺ったり、会議に参加してもらったりしている。面会時等に不満や要望を伺い、職員で検討し運営に活かしている。	家族からは面会時や運営推進会議時に意見をもらうことが多い。また、意見箱を設置したり、利用料の請求書を送付する際に無記名で意見を書いてもらう用紙を同封するなど、意見を引き出すような取り組みを行っている。口頭での些細な意見であっても、出された意見は「苦情・要望受付書」に記載して職員全員で確認し、対応している。利用者からも食事の内容ややりたいことなどの意見や要望があり、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会やカンファレンス、日々の業務においてスタッフの意見や提案を出し合い検討し、運営に活かしている。	毎月、部会（職員会議）を開催しており、事故報告や利用者のケア方法の検討の他に、物品の購入や業務内容の変更、利用者の外出希望などについて意見交換をしている。日常的にも管理者に対して個別に意見や提案が伝えられるなど風通しの良い関係ができており、出された意見は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いの仕事についてサポートしたり、それぞれの問題点や悩みを聞き仕事内容を改善している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員に対する研修を施設全体で行っている。又、施設内外の研修にも参加しスキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に近隣のグループホームに参加をして頂き交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、自宅へ伺いご本人様の意向をゆっくり伺い信頼関係を築いている。又、ご本人とご家族でホームに来て頂き不安や困り事を伺っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	新規受け入れ時には、自宅等へ伺い状態などのお話を聞く時間を持ち面接を行っている。又、ご本人と一緒にホームに来て頂き不安や困り事を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に状態確認の連絡を行い現状把握、ケアマネ等へ連絡し、「今」何が必要とされているのか相談検討を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔行ってきた経験や体験などを伺い、日々の生活の中で教えて頂き役立てている。		
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事へのお知らせと参加への声掛けを行う。ご家族の方々とお話する中で、ご家族の状況も把握していく、相談や報告は随時させて頂く。	家族には、面会や行事への参加をお願いしている。請求書と一緒に広報誌や担当職員が本人の様子を書いたメッセージカードを送ったり、面会時には本人の様子を口頭で伝え、居室にお茶を持って行き、ゆっくりできるよう配慮している。家族には面会や自宅への外出や外泊、外食、お墓参りなどをお願いすることで共に本人を支える関係づくりに努めている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時には、ゆっくり出来る場所の提供を行っている。ご本人の希望があれば、外出する事もある。	昔所属していたコーラスグループからコンサートに招待されたり、昔馴染みの方や、グループホームから併設の特別養護ホームへ入所した方が遊びに来ているなど、利用者それぞれの馴染みの人間関係が継続されている。また、地元の美容室を利用できるかを家族に相談したり、自宅や家の畑の様子を身元引受人から聞くなど、これまでの関係が続くよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係もできている。トラブル発生時以外でも見守りに努めている。各自の食席にも配慮を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られた方でも、定期的ではなくとも利用者様と一緒に面会に訪れる事もある。相談等あればその都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中から個人の希望や思いを聞き尊重に努めている。	食事や入浴時など、日常生活の中で利用者が話しやすい場を作って意向を聞いている。一人ひとりの性格に合わせて改めて対面で確認をとるなど、これからの生活で実現したい具体的な意向の把握に努めている。個々の意向を踏まえて支援した結果、本人のやる気が引き出され、状態が改善された事例もある。	
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前や入所後でも、ご本人・ご家族・担当ケアマネから今までの生活状況を聞き、把握に努め役立てている。	担当職員が利用者や家族から聞き取りを行い、基本情報シートに生活歴や好きな事、嫌いな事などを記載している。また、入居前に自宅訪問をしてこれまでの暮らしの把握に努めている。生活歴や趣味を活かしながら本人の意欲を引き出し、自己実現に繋げている事例も多い。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常的な気付を話し合い共有し、記録に残し、日々の生活に反映している。利用者様各人一日のスケジュールを持っている人にはそれに添うように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族の意向を参考に担当職員と作成担当者が原案を作成し、担当者会議を行い、検討・確定している。	可能な限り家族と話し合いの場を持ち、本人や家族の意向をもとに担当職員と計画作成担当者が相談して介護計画を作成している。計画の内容は職員全員が把握しており、実施状況を記録して毎月モニタリングを行っている。	介護計画に基づいて支援が行われるわけであるから、介護計画は利用者の納得したものになるよう作成過程で担当者会議を開き、計画の原案を提示して十分に利用者の意見・意向を聞いてそれを反映させることが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌に記録、個別生活記録には時間を記入し、見やすい工夫を行っている。又、毎朝夕の申し送り時に情報の共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の状態の変化やご家族の要望に合わせて、その都度 職員間で話し合い対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	向いの小学校から文化祭や運動会などの招待状が届き参加させて頂いている。月に一回、地域の資源回収に参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所後グループホームの協力病院での受診を希望される方には職員対応で支援を行っている。又、以前からのかかりつけ医を継続されたい方は利用者様とご家族の希望に添い行っている。	事業所の協力病院での受診を希望する方は、事業所でも対応を行っており、現在は全ての利用者が協力病院で受診している。それ以外の医療機関を受診する場合は家族に対応をお願いしているが、利用者の状況に応じて職員も付き添うこともある。受診結果については管理者が家族に手紙で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と様子の変化が見られた時は特養の看護職員に相談・助言をもらっている。また、協力病院の看護師にも相談・助言を随時出来る体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携を図り、家族の相談にも常に対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に重度化や終末期についての方針を説明している。又、退所基準についても説明している。ご家族の意向に添った支援を基本としているが、グループホームの状況も説明、理解して頂き、その都度書面等で相談させて頂いている。	契約時に、重度化や終末期のケアについて事業所で出来る事や出来ない事を記した「契約の終了又は解除と退所時の支援について」を説明し、文書を渡している。また、状態変化に応じて今後の方向性について家族と相談し、状況に応じて協力病院や特別養護老人ホームを紹介したり移行の支援をしている。併設の特別養護老人ホームとは移行する場合の連携が取れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特養と合同で心肺蘇生法・AEDの講習会を年2回実施し、参加している。応急手当については年間予定表に組み込み行っている。	急変時の対応方法については、併設の特別養護老人ホームの看護職員を講師として学習会を開いている。また、管理者が職員に抜き打ちで具体的な事例を提示して、実際に初期対応を行なってもらう訓練をするなど、実践力の向上を図っている。	心肺蘇生法やAEDの操作法の訓練を年2回行っているが、急変はいつどのような状況で起こるか分からない。いざという時に困らないよう、全ての職員が習得できる研修のあり方について再検討することを期待したい。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設特養との災害時対策あり、グループホーム独自でも毎月、日中・夜間を想定し行っている。(火災・地震・水害時の避難訓練)	防災委員会を中心に火災、地震、水害、停電を想定した訓練を実施しており、予告なしで火災を想定した訓練も行なっている。避難訓練時は民生委員に利用者の誘導を協力してもらっている。また、備蓄のカップラーメンなどの食品は賞味期限が迫ると皆で一緒に試食するなどして、防災への意識付けを図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に添った援助方法で対応。居室に入る時はノックし、利用者様の了解を得て入室している。個人情報書類は鍵のかかる所で保管している。特養と合同で研修を行っている。	接遇に関する研修会を実施しており、浴室にビニールカーテンを用いてプライバシーに配慮するなど、一人ひとりに合わせた対応をしている。個人の記録物は利用者様の見えないところで書き、施錠できる場所に保管されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意思表示や選択が行い易いように声掛けを行い、選んでいただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴は午前中から行っており、利用者様に合ったペースで入浴して頂いている。散歩等希望される利用者様にはその都度付き添い支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容師(ボランティア)が来園し、希望した髪型にしてもらっている。地域の理容店やなじみの美容室に出掛けられる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを把握しメニューに反映している。食事の下ごしらえ等出来るところは手伝って頂き一緒に行っている。又、リクエストがあればメニューに入れている。	献立は栄養士の指導を受けて作成しているが、利用者の希望や畑の収穫物があれば臨機応変に変更している。利用者には味噌汁づくりや野菜の皮むき、和え物などの調理や後片付けなど、できることを職員と一緒にこなしてもらっており、職員も一緒に作ったものを食べながら出来栄などを話しあっている。時には外食に出かけたり店屋物を取ったり、また、笹団子やスイーツなどを作って楽しむ美食クラブを毎月設けるなど、食事を楽しめる工夫を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の持病や状態に合ったメニューを提供している。食事量・水分量をそれぞれチェック表に記入し低下されていた方には補食等で多く摂って頂けるように配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを習慣としている。その方の状態に応じ、歯ブラシの他に歯間ブラシ・舌ブラシを使用している。自ら行えない方は職員と一緒にしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様に合った声掛けをこまめに行い、トイレに行かれた時は付き添いをしている。排泄チェック表により管理している。	排泄チェック表を用いてその方に合わせた方法でトイレ誘導を行なっている。現在、全ての利用者が日中トイレで排泄をしており、半分の方がオムツを使用していないなど、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食に乳製品やバナナを提供したり、水分補給を重視している。便秘に良く効く食べ物を毎日の食事に取り入れるようにしている。又、朝食後にラジオ体操を行い体を動かしている。利用者様の希望に応じ歩行訓練を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の習慣や希望に合わせて入浴している。又、ゆっくりと時間がとれるように配慮し、状況により清拭、更衣も実施している。	ほぼ毎日入浴できるようにしており、利用者の希望に合わせて入浴を支援している。中には午前中いっぱいかけてゆっくりと入る方もおられ、一人ひとりの希望に合わせて対応している。また、ゆず湯や入浴剤を使った変わり湯にしたり、温泉地の足湯に出かけるなど楽しめる工夫をすることにより、現在入浴を拒否する方はおられない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるが、利用者様の希望によってはテレビを見て頂く時もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬の内容を個別ファイルで管理し、いつでも確認する事が出来る。頓服薬についても朝夕の申し送り時に伝え、介護日記にも記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の好みでいつでもお茶・コーヒー等飲んで頂いている。歌の好きな方にはDVD・CDを楽しんで頂いたり、園芸の好きな方にはホームの花の手入れや畑の草取りを担当してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	買い物・散歩・ドライブ等日常的に外出している。いちご狩り・足湯ツアーなどにも出掛けた。毎月、行事を企画し外出の機会を作っている。ご家族が参加出来る場ももうけている。	年間の行事計画に沿って花見やぶどう狩りなど、特別養護老人ホームの車を借りてドライブがてら出かけている。また、毎日事業所周辺の散歩や花壇の水やり、買い物などにも出かけている。選挙の期日前投票や宝くじを買いに行くなど個別の希望にも対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人所持は行っていない。家族の了解にて施設で管理し、日常必要な物・利用者様の欲しい物はその中から購入させて頂いている。毎月レシートをつけて預り金報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望があればいつでも電話をかけたたり手紙を書いたり支援は行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングから眺められるように外には花や木を植え季節を感じられるようにしている。季節に合った小物等で飾り付けを行っている。一緒に飾り付けを行う事で季節感を感じて頂いている。	共用空間は和紙の提灯や、木の枝に柿やぶどう、繭玉など季節に応じた飾り付けをして落ち着いた雰囲気がつくられている。廊下にはソファが置かれ、利用者のリラックススペースになっている。リビングの窓からは、稲作風景や近くの山々が見えて季節ごとの変化を楽しむことができ、居心地よく過ごせる空間となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き利用者様の所定の場所やお気に入りの場所がある。又、ホームの東西にソファを設置し利用者様の談話の場となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前より使用されている家具等慣れ親しんでいる物を持ち込んで頂き、落ち着いて生活できるようにして頂いている。	居室にはベッドが備え付けられているが、その他の家具などは自宅で使っていた馴染みの物が持ち込まれている。家族の写真や、趣味の習字の作品、仕事で使用していた元素記号の表、日記など、それぞれが思い思いの物を持ち込んでいる。清掃については、毎月業者がワックスがけを行い、日々の掃除は利用者に行ってもらおうが、出来ない方は職員が支援して居心地よく過ごせるきれいな環境づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の意欲を踏まえた中での支援を心掛けている。各居室の入り口には大きく名前を掲示し、分かりやすいようにしている。トイレや浴室も分かりやすい言葉で工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				